

被災古墳の現在

2016.4

～熊本地震からの復旧～

2025年(令和7年)

9月27日[土]

2026年(令和8年)

2月8日[日]

熊本県立装飾古墳館 1階企画展示室

平成28年4月に熊本地方を震源として発生した熊本地震は、熊本城、阿蘇神社など、県内の文化財に甚大なる被害をもたらしました。古墳も数多く被災し、釜尾古墳(熊本市北区)、井寺古墳(嘉島町)、石之室古墳(熊本市南区)など、その数48基に上ります。

現在、被災古墳が所在する自治体で、その復旧に係る検討や整備が行われていますが、その過程で課題や問題点などが生じるなど、地震から9年経過してもなお、復旧が完了していない古墳が多くあります。

今回の展示では、そうした県内の被災古墳について、被災後、復旧がどこまで進み、今後どのようになるのかを見ていくとともに、将来的な古墳の保存について考えていきます。



開館時間：午前9時30分～午後5時15分
休館日：月曜日(祝日の場合翌日) 年末年始(12/25-1/4)
観覧料：一般430(300)円 大学生260(180)円
高校生以下無料 ※かつこ内は20名以上の団体料金

〒861-0561 熊本県山鹿市鹿央町岩原3085番地
Tel: 0968-36-2151 Fax: 0968-36-2120

熊本県立装飾古墳館

装飾古墳館 HP

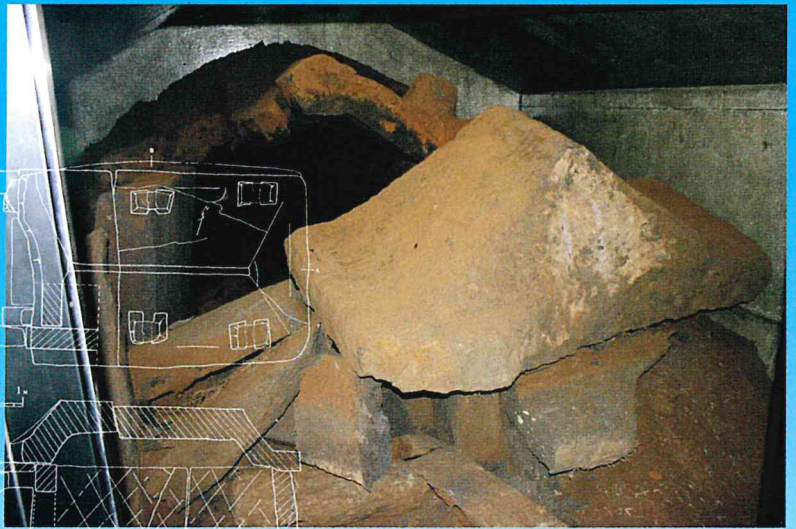


被災古墳の現在

～熊本地震からの復旧～

第1部 熊本地震と古墳

「平成28年熊本地震」は、震源となった益城町で前震及び本震で震度7を2度観測し、その震動は熊本県全域に及びました。その結果、熊本城や阿蘇神社、通潤橋など、国指定、国登録、県指定文化財の22.8%が被災する事態となりました。古墳にも大きな被害が出ており、平成31年1月の和水町で震度6弱を観測した地震により被災した江田船山古墳を含めると、県内の48基の古墳が被災しています。これら県内の被災古墳の状況について概観します。



第2部 被災古墳の現在

熊本県内の被災古墳の復旧については、所在自治体を中心に復旧整備が進められていますが、その過程で、石室などの埋葬施設の復旧や装飾古墳の保存環境の維持、墳丘盛土の保護など、古墳の復旧を実施する上での課題・問題点が見えてきました。県内の主だった被災古墳の概要と被災の程度、復旧の現状について、個別に解説します。



第3部 古墳を護り、伝える

古墳の復旧にあたっては、その文化財的価値を僅かでも損ねないように、どのような方法で復旧するのか、その方針を決めることが重要です。こうした方針の決定に時間を要するなかでも、令和6年度には塚坊主古墳や永安寺東古墳の復旧が完了するなど、少しずつですが、復旧が進んでいます。また、将来的な備えとして、古墳を3次元データで記録していくことの重要性も認識されています。このような県内における古墳の復旧状況と今後の保存に向けての取組を紹介します。



熊本県立装飾古墳館

開館時間：午前9時30分～午後5時15分

休館日：月曜日(祝日の場合翌日) 年末年始(12/25-1/4)

観覧料：一般430(300)円 大学生260(180)円

高校生以下無料 ※かつて内は20名以上の団体料金

〒861-0561 熊本県山鹿市鹿央町岩原3085番地

Tel：0968-36-2151 Fax：0968-36-2120

